



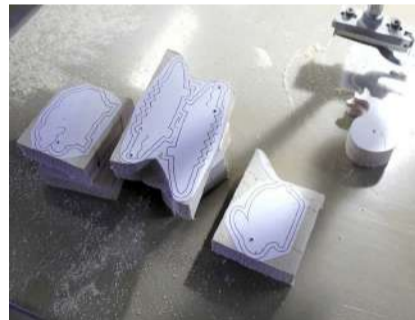
キッコロ
(木工)

木のぬくもりたっぷり！
記憶に残る
特別なおもちゃ。



動物の形にくり抜いていく。

学校ではインテリアデザインを学び卒業後、興味があつた家具作りの世界へ。学びながら約8年間家具製作を行う。そして独立。今では場所を変え大きな工房だが、初めは大きな機械を置く事も移動するのも困難な程、小さな工房だった。それまで作り続けてきた家具だがスペース的にも難しい…。そんな悩ませていた場所が、今のおもちゃ作りをするきっかけとなった。「家具だと1人で作ることになると思うけど、小物だから2人で作れていると思います。」今では旦那さんと奥さんの2人でアイデアを出し合い、作品が作られている。



羊にワニにウサギ！
ブローチになっていく。

そしてキッコロのおもちゃは、いわゆる振ると音が鳴るものから、上下を逆さまにすると怒ったり、笑ったり、泣いたり…表情が変わるものなど、子供はもちろん、大人でも思わず楽しんでしまう。そして、その表情が何とも愛らしい。

「思い出をインテリアとして、遊び終わっても飾っておきたいものを作りたい。」おもちゃと想像すると、そもそも飾るものという意識は少ないと思う。遊び終わった後はおもちゃ箱に入れられ、片付けられる。子供だけのものという意識も強いのもかもしれない。しかし、キッコロのおもちゃは不自然さを受けず、インテリアの一部の様な印象を与える。



申年の時に
つくった
猿の鏡餅!!

話しを伺っていると、キッコロの作品にはひとつひとつに出来るまでのストーリーがある様に思う。お互いアイデアを出し合い、何度も書き換えられるスケッチから始まり、旦那さんのフォルムに対するこだわり、奥さんの目・鼻・口など表情のこだわり、どれにも出来るまで互いの色々なこだわりが込められている。そして、ひとつの作品が出来上がる。

今では毎週の様クラフトフェアに参加している。「仕事の話より、行き先々の美味しいものとか温泉の話をする方が多いですよ。」そう、笑って話す2人を見てみると、この作品たちがこういう中で生まれているんだなと、実にしっくりくる。大人も子供も実際に手に取って、是非遊んでみてほしい。

